

## 国際協力関連

コーディネーター：内藤 毅

2016年に開始したJICA(日本国際協力機構)の草の根技術協力プロジェクトが最終年度となるため2018年も頻りにネパールへ渡航した。ネパールへは1月、3月、4月、5月、6～7月、8～9月、11月、12月の8回渡航し、6月にはモザンビークで眼科医療支援(アイキャンプ)を行った。また8月には医学部交流事業でモンゴルへも渡航した。JICAプロジェクト関連では4名の眼科医が2回目の研修に来日した。さらに、ネパールで徳島大学医学部生2名の眼科臨床実習(クリニカルクラークシップ)の指導も行った。私の不在中、皆様に多大なご迷惑をおかけしたことを深謝するとともに、暖かいご支援に感謝する。

### ネパール 1月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

- 1月15日(月) 夕方、徳島から羽田へ移動
- 1月16日(火) 羽田～バンコク～カトマンズ
- 1月17日(水) ～19日(金) JICAプロジェクト業務
- 1月20日(土) カトマンズで特別講演会主催。
- 1月21日(日) ポカラで症例検討会および特別講演会開催
- 1月22日(月) ポカラからカトマンズへ移動
- 1月23日(火) 帰国の途に着く
- 1月24日(水) 帰国

### ネパール 3月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

- 3月12日(月) 夕方、徳島から羽田へ移動
- 3月13日(火) 羽田～バンコク～カトマンズ
- 3月14日(水) 午前、JICAプロジェクト会議。午後、空路カトマンズからポカラへ移動
- 3月15日(木) ～23日(金) ヒマラヤ眼科病院で眼科医研修を指導
- 3月23日(金) 研修終了後空路ポカラからカトマンズへ移動
- 3月24日(土) 帰国の途に着く
- 3月25日(日) 帰国

### ネパール 4月 眼科臨床実習指導(自費)

- 4月22日(日) 関空からバンコクへ移動
- 4月23日(月) カトマンズ着。眼科臨床実習オリエンテーション
- 4月24日(火) ～4月27日(金) トリブバン大学附属病院で眼科臨床実習を指導
- 4月28日(土) 帰国の途に着く
- 4月29日(日) 帰国

### ネパール 5月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

- 5月7日(月) 夕方、徳島から羽田へ移動
- 5月8日(火) 羽田～バンコク～カトマンズ
- 5月9日(水) 午前、JICAプロジェクト会議。午後、第2回本邦研修計画調整
- 5月10日(木) JICAネパール事務所訪問
- 5月11日(金) 日本大使公邸で小川大使離任レセプション出席後、プロジェクト関連団体会議を行った
- 5月12日(土) 空路ポカラへ移動
- 5月13日(日) ～5月17日(木) ヒマラヤ眼科病院で眼科助手研修指導
- 5月17日(木) 研修終了後、悪天候のため陸路ポカラからカトマンズへ移動
- 5月18日(金) 帰国の途に着く
- 5月20日(日) 帰国

### モザンビーク眼科医療支援プロジェクト(独自プロジェクト)

- 6月5日(火) 出国、関空～ドバイ(エミレーツ航空)
- 6月6日(水) ドバイ～ヨハネスブルグ～マプト(エミレーツ航空、南アフリカ航空)
- 6月7日(木) マプトからシャイシャイへ移動。シャイシャイ病院訪問
- 6月8日(金) 患者診察および手術場を設営

6月9日(土) 70人の白内障手術施行  
6月10日(日) 術後回診、78人の白内障手術施行  
6月11日(月) 術後回診、72人の白内障手術施行  
合計220人の白内障手術終了  
6月12日(火) 術後回診、器材梱包、撤収  
6月13日(水) マプトへ移動。JICA事務所訪問  
6月14日(木) 帰国の途に着く。マプト～ヨハネスブルグ～ドバイ  
6月15日(金) ドバイ～関空

#### ネパール 6～7月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

6月25日(月) 夕方、羽田へ移動  
6月26日(火) 関空～バンコク～カトマンズ  
6月27日(水) JICAプロジェクト会議  
6月28日(木) JICAプロジェクト網膜アイキャンプ  
6月29日(金) 日本大使館表敬訪問。ネパール網膜硝子体学会主催の集会で講演  
6月30日(土) 7月1日(日) 休日  
7月2日(月) JICAプロジェクト事務所業務  
7月3日(火) 空路シマラへ移動、シマラから陸路ビルガンジへ移動。7月5日(木) までケディア眼科病院で眼科助手研修指導  
7月5日(木) 陸路ビルガンジ～シマラ、空路シマラ～カトマンズへ移動  
7月6日(金) JICAプロジェクト網膜アイキャンプ後、帰国の途に着く  
7月7日(土) 帰国

#### モンゴル 8月 医学部交流事業(徳島大学、医学部予算)

8月21日(火) 徳島～羽田～成田～ウランバートル  
8月22日(水) ～24日(金) 医学部交流プログラム  
8月25日(土) ウランバートル～成田～羽田～徳島

#### ネパール 8～9月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

8月27日(月) 夕方、羽田へ移動  
8月28日(火) 羽田～バンコク～カトマンズ  
8月29日(水) 30日(木) JICAプロジェクト事務所業務  
8月31日(金) 空路ポカラへ移動  
8月31日(金) ～9月3日(月) ヒマラヤ眼科病院で看護師講習会指導  
9月3日(月) 講習会終了後、空路カトマンズへ移動  
9月4日(火) ドゥリケル病院訪問  
9月5日(水) JICAプロジェクト事務所業務  
9月6日(木) JICAプロジェクト会議  
9月7日(金) 帰国の途に着く  
9月8日(土) 帰国

#### ネパール 11月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

11月19日(月) 夕方、羽田へ移動  
11月20日(火) 羽田～バンコク～カトマンズ  
11月21日(水) 空路ポカラへ移動。JICAプロジェクト網膜アイキャンプ  
11月22日(木) JICAプロジェクト内科医研修。空路カトマンズへ移動  
11月23日(金) JICAプロジェクト事務所業務  
11月24日(土)、11月25日(日) 休日  
11月26日(月) JICAプロジェクト網膜アイキャンプ  
11月27日(火) JICAプロジェクト内科医研修  
11月28日(水) 徳島大学国際課ネパール訪問チームと会議  
11月29日(木) JICAプロジェクト会議  
11月30日(金) 帰国の途に着く  
12月1日(土) 帰国

## ネパール 12月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)

12月17日(月) 夕方、羽田へ移動  
12月18日(火) 羽田～バンコク～カトマンズ  
12月19日(水) 武装警察病院訪問。ミーナ・クンワール先生と面談  
12月20日(木) JICA プロジェクトヘルスワーカー研修  
12月21日(金) JICA プロジェクト評価作業  
12月22日(土)、12月23日(日) 休日  
12月24日(月) JICA プロジェクト評価作業  
12月25日(火) トリバン大学眼科のアナンダ教授と面談  
12月26日(水) JICA プロジェクト評価作業  
12月27日(木) JICA プロジェクト評価作業およびプロジェクト会議  
12月28日(金) 帰国の途に着く  
12月29日(土) 帰国

## 2018年ネパール活動概略

2016年から開始された JICA 草の根技術協力プロジェクト「ネパールにおける網膜疾患診療サービス強化プロジェクト」は、種々の問題が発生したが問題を解決しながら最終年度に到達することができた。

1月にはカトマンズで特別講演会を開催した。この講演会には日本から3名の先生に講演を依頼した。近畿大学の日下俊次教授、水戸の小沢眼科の埴本 宰先生、三重の松阪中央総合病院の久瀬真奈美先生にそれぞれの専門分野である、未熟児網膜症、小切開硝子体手術、網膜薬物治療に関して講演して頂いた。カトマンズでの特別講演会の翌日にはポカラで、実際の患者さんを診察しながらの症例検討会と講演会を開催した。双方とも盛会であった。

8月には4名のネパール人眼科医が2回目の本邦研修のため来日し、徳島大学および近畿大学で約2週間研修した。トリバン大学 B.P. Koirala Lions Center for Ophthalmic Studies (BKLCOS)の Pratap Karki 先生と小児眼科病院 Children's Hospital for Eye Ear and Rehabilitation Services (CHEERS)の Arjun Shrestha 先生、Himalaya Eye Hospital の Hara Maya Gurung 先生、Kedia Eye Hospital の Chunu Shrestha 先生の4名で、全員2回目の本邦研修であり硝子体手術の技術研修、未熟児網膜症等の小児眼科研修を行った。



左写真：近畿大学手術室で研修中の4名のネパール人眼科医

研修後はさらに現地での手術技術の発展が期待できる。全員活発に活動しており、今後のネパールでの指導者としてネパールの眼科を発展させるとともに、我々のプロジェクト終了後も独自に教育活動に力を注いでくれるであろう。

我々のプロジェクトの重要なプログラムに種々の講習があり、昨年の講習会を発展させながら多種多様な講習会を開催した。3月にはポカラのヒマラヤ眼科病院で眼科医講習会を行った。2週間の日程で網膜硝子体疾患に関する内容の講習会を行った。

右写真：眼科医講習会で単眼倒像鏡の使い方指導

さらに、眼科助手やオプトメトリストの講習会も行った。これらの講習会は1週間の日程で行われ、ほぼ共通の講習内容で行うため、場合によっては眼科助手とオプトメトリスト講習を同時に行った。5月にはポカラのヒマラヤ眼科病院で眼科助手・オプトメトリスト合同講習会を行い11名が参加した。7月にはビルガンジのケディア眼科病院で眼科助手講習会を行い合計14名が参加した。また、8月にはヒマラヤ眼科病院で看護師講習会を行い7名の参加であった。看護師講習会は3日間のプログラムで網膜疾患の理解と患者への説明等に関する研修を行った。さらに、9月にヒマラヤ眼科病院でヘルスワーカー講習会を行い15名が参加した。10月にはケディア眼科病院でもヘルスワーカー講習会を行い13名が参加した。ヘルスワーカー講習会は1日のプログラムで網膜疾患の予防の重要性を理解し、住民への説明の仕方を実習してもらった。

JICA プロジェクトの合間に眼科臨床実習を行っているが、4月に2名の希望者を現地で指導した。彼らは国際医療協力に興味を持っており、将来国際的に活躍して欲しい。





左写真：徳島大学医学部学生のネパールでの臨床実習風景

## 2018年モザンビーク眼科医療支援（アイキャンプ）報告

2018年のモザンビークアイキャンプは現地保健省の要請により、2016年と同じシャイシャイとなった。シャイシャイは首都マプトに近いにもかかわらず医療物資が供給されていない。これはモザンビークの国家財政が破綻しているためで、非常に厳しい状況である。また、昨年までアイキャンプを行っていたペンバの治安情勢が極端に悪くなり、今後しばらくはシャイシャイでアイキャンプを行う可能性が大きい。

6月5日（火）夜、20時に関空に集合した。今回は姫路市のツカザキ病院の長澤先生、野口先生、視能訓練士の石飛さん、そして種子島医療センターから田上先生が参加してくださった。また、モザンビーク現地コーディネーターの宝山さんの知人の佐門さん（関西学院大学2年）が同行することになった。我々の便よりも早く、成田からは看護師の沼田さんが飛び立ちドバイで落ち合うことになっている。



左写真：関空に集合

6月6日（水）早朝のドバイに到着。しばらくして沼田さんに会うことができ、ドバイで全員集合となった。飛行機を乗り継ぎ夕方にはヨハネスブルグに到着した。ヨハネスブルグでさらに飛行機を乗り継ぎ、夜9時にはモザンビークの首都マプトに到着した。ここまでは順調な旅であった。今まで順調に来ることが少なかったため、きっと何かあると思っていたら、案の定荷物が一個出て来なかった。今回のアイキャンプのために新たに買ったハンディレフケラメーターである。こんな事もあるだろうと予想してレフケラメーター本体は携行していたが、キャリングケースと付属品を梱包した荷物が行方不明である。おそらくヨハネスブルグであろう。ヨハネスブルグ空港では今まで荷物が抜き取られるなど何回か酷い目にあって来た。前もって一番大事な本体を抜き取って携行したのは正解であった。荷物紛失の手続きを行いホテルにチェックインしたのは夜11時近かった。

6月7日（木）晴れ、雲ひとつない快晴である。日本は梅雨入りしたばかりであるがこちらは乾季である。しかも南半球で冬なので肌寒い。時差ボケのためか熟睡できなかったが早朝に起床し、シャイシャイへの移動に向けて準備をした。午前9時にホテルを出発し、モザンビーク人眼科医、青年海外協力隊員たちとの待ち合わせ場所を回りながら、シャイシャイへ向けて出発した。シャイシャイには午後2時前に到着。早速病院へ行き、持ってきた医療機材を運び込み院長たちと面談して日程を終了した。昼食を食べていなかったので夕食を早めに取り、明日からのアイキャンプに備えて早々と就寝した。

6月8日（金）晴れ。早朝に宝山さんから紛失していた手荷物が見つかったと連絡があった。宝山さんの知り合いがマプトを早朝に発ち運んで来てくれるとのこと、大変有り難い。9時前に病院に行ってみるとすでにたくさんの患者さんが待っていた。現地のモイゼス先生は事前に300人の患者さんを集めたと言っていた。また、宝山さんの知人がすでに荷物を持って来てくれていた。荷物が無事でほっとした。眼科外来で診察のために器材設定を行い、診察を開始したのは午前10時頃であった。診察で白内障手術が必要な患者を振り分け、バイオメトリーを行い眼内レンズのパワーを決定した。合計約250人の患者を診察し220人の白内障手術患者を選択した。患者診察後は手術室で設営を行った。アイキャンプも長年続けていると手馴れて来て手順がスムーズである。手術器具の滅菌を依頼して午後6時過ぎに日程を終了した。

右写真：待っていたたくさんの患者さんたち

6月9日（土）晴れ。朝8時に病院に到着。早速手術の準備に取り掛かり、10時に手術を開始した。まず長澤先生と野口先生が初め、今回初参加の田上先生が手術に加わった。長澤先生と野口先生はモザンビークでのアイキャンプには慣れているのでどのような患者にも対応できる。私は後方支援に努め昼食交代の時のみ手術を行った。休まずに手術を行い午後6時半頃には70人の白内障手術を終了した。手術器具を洗浄し翌日の手術に備え滅菌を依頼して手術を終了した。





左写真：手術風景

6月10日(日) 晴れ。毎日快晴である。病院に到着して最初に外来へ行き、昨日手術した患者さんの回診を行った。患者さんも我々も緊張する一瞬である。両眼失明の患者さんを優先して手術したため、最初の回診は特に緊張する。手術結果は概ね良好であり笑顔が溢れる。再び見えた喜びの余り踊りだす患者さんもいた。回診後は早速手術準備に取り掛かり手術を開始し、午後6時前には78人の手術を終了した。手術器具を洗浄して日程を終了した。

6月11日(月) 晴れ。昨日と同様に手術後の回診を行った。ほとんどの患者さんが視力を回復し良好な結果であった。回診後、早速手術準備をしたが、小児の白内障手術を全身麻酔で行うため準備が煩雑であった。また、テレビ取材などがあり手術室は賑やかであった。テレビ局のインタビューには白内障手術の重要性を説明した。モザンビーク人眼科医のモイゼス医師に手術を教えようとしたが、恥ずかしがってしようとしないう。どうもたくさんの人に囲まれて手術をするのが嫌なようだ。しかし、最後の患者さんは彼にやってもらった。彼の技術をチェックしながら無事手術を終了した。夕方には72人の白内障手術を終了し、手術器具の洗浄、物品の梱包に取り掛かった。モザンビークは医療器材が乏しく、ナイフや粘弾性物、眼内レンズなどを寄贈した。



左写真：モザンビーク人眼科医への技術指導風景

6月12日(火) 晴れ。まず手術後の回診を行ったが視力を回復した喜びで賑やかである。感激のあまり踊りだす患者さんや泣き出す患者さんもいる。しかし中には手術後すぐに見えず落胆している患者さんもいるが、少しずつ見るようになると説明し納得してもらう。回診後の記念写真は大変賑やかであった。手術器具等の物品を最終的に梱包し、全ての日程を終了した。みんなで病院長にお礼を言って病院を後にし、シャイシャイから1時間半ほどにあるホテルに宿泊した。

6月13日(水) 晴れ。午前中にマプトへ移動した。在モザンビーク日本大使館の方々と情報交換した後、日本が建設中の火力発電所の建設現場を見学した。この発電所はモザンビークで産出される天然ガスを使い、最新の技術を駆使した効率の良い火力発電で、これが完成するとマプト市内の電気は安定するとの説明であった。その後、JICAモザンビーク事務所を表敬訪問し、今回のすべての日程を終了した。

6月14日(木) 帰国の途につく。往路と同じ経路で6月15日(金)、予定通り関空に到着した。

モザンビークで指導してきた眼科医がシャイシャイ病院に着任し、白内障手術を開始した。やっと我々のプロジェクトの成果が徐々に見え始めてきた様に思う。やはり成果が出始めるまでに10年はおかかると思われた。